

フォント

1. 利用可能なフォント	2
1-1. 利用可能なフォントについて	2
2. PDF 用埋め込みフォント	4
2-1. 概要	4
2-2. 設定方法	4
2-2-1. フォントマネージャによるフォント登録	4
2-2-2. Form エディタでのフォント設定	6
2-2-3. フォントファイルの配置	7
2-2-4. ランタイム実行	7
2-3. 画面説明	7
2-3-1. フォントマネージャ	7
2-3-2. PDF フォント詳細ダイアログ	9
2-4. 制限事項	10
2-5. 注意事項	11
3. PostScript フォント追加	12
3-1. 概要	12
3-2. 設定方法	12
3-2-1. フォントマネージャによる PostScript フォント登録	12
3-2-2. Form エディタでのフォント設定	13
3-2-3. QDF ファイル設定	13
3-2-4. ランタイム実行	14
3-3. 画面説明	15
3-3-1. フォントマネージャ	15
3-3-2. フォントの属性ダイアログ	16
3-4. 注意事項	17

1. 利用可能なフォント

1-1. 利用可能なフォントについて

Create!Formにおいて利用できるフォントは、各ランタイム製品により次のように異なります。

- FormCast、FormCollect ランタイム : TrueType フォント
- FormPrint ランタイム : PostScript フォント
- FormPrintStage ランタイム : TrueType フォント、アウトラインが TrueType 形式の OpenType フォント

開発環境の FormDesign では、PostScript フォント、TrueType フォントの両方が設定できますので、利用するランタイム製品に合わせたフォントで Form ファイルを設計してください。

FormPrint ランタイムで TrueType フォントを指定するなど、適さないフォントを指定した場合は、各ランタイムが自動的にフォントを代替して出力を行います。このため、想定するフォントで出力されないこともありますので、ご注意ください。

各ランタイムで利用可能なフォント、代替されるフォントについては、下記の一覧表をご参照ください。

« 注意 »

下表のフォントを選択した場合、FormCast および FormCollect ランタイムにて出力される PDF にはフォントが埋め込まれません。PDF にフォントを埋め込む方法に関しては「2. PDF 用埋め込みフォント」をご覧下さい。

« 注意 »

下表で紹介する PostScript フォントは Create!Form の初期状態で使用できるフォントです。FormPrint ランタイムにて利用する PostScript フォントを追加する方法に関しては「3. PostScript フォント追加」をご覧下さい。

□ TrueType フォント（フォームで TrueType フォントを設定した場合）

	FormPrint	FormCast FormCollect	FormPrintStage
MS 明朝	Ryumin-Light (-H)	○	○
@ MS 明朝	Ryumin-Light (-V)	○	○
MS ゴシック	GothicBBB (-H)	○	○
@ MS ゴシック	GothicBBB (-V)	○	○
その他	Ryumin-Light	MS 明朝	○

（○は対応フォント フォント名は代替フォント）

□ PostScript フォント（フォームで PostScript フォントを設定した場合）

	FormPrint	FormCast FormCollect	FormPrintStage
Ryumin-Light (-H) (-V)	○ ○	MS 明朝 @ MS 明朝	MS 明朝 @ MS 明朝
GothicBBB-Medium (-H) (-V)	○ ○	MS ゴシック @ MS ゴシック	MS ゴシック @ MS ゴシック
FutoMinA101-Bold (-H) (-V)	○ (注 1) ○ (注 1)	MS 明朝, Bold @ MS 明朝, Bold	MS 明朝, Bold @ MS 明朝, Bold
FutoGoB101-Bold (-H) (-V)	○ (注 1) ○ (注 1)	MS ゴシック, Bold @ MS ゴシック, Bold	MS ゴシック, Bold @ MS ゴシック, Bold

Jun101-Light (-H) (-V)	<input type="radio"/> (注 1) <input type="radio"/> (注 1)	MS ゴシック @ MS ゴシック	MS ゴシック @ MS ゴシック
Courier -Bold -Oblique -BoldOblique	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	Courier -Bold Courier -Bold
Times-Roman -Bold -Italic -BoldItalic	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	MS Serif -Bold MS Serif -Bold
Helvetica -Bold -Oblique -BoldOblique	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	MS Sans Serif -Bold MS Sans Serif -Bold
AvantGarde-Book -Demi -BookOblique -DemiOblique	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	Helvetica -Bold -Oblique -BoldOblique	MS Sans Serif -Bold MS Sans Serif -Bold
Bookman-Light -Demi -LightItalic -DemiboldItalic	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	Times-Roman -Bold -Italic -BoldItalic	MS Serif -Bold MS Serif -Bold
NewCenturySchlbk-Roman -Bold -Italic -BoldItalic	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	Times-Roman -Bold -Italic -BoldItalic	MS Serif -Bold MS Serif -Bold
Palatino-Roman -Bold -Italic -BoldItalic	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	Times-Roman -Bold -Italic -BoldItalic	MS Serif -Bold MS Serif -Bold
Helvetica-Narrow -Bold -Oblique -BoldOblique	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	Helvetica -Bold -Oblique -BoldOblique	MS Sans Serif -Bold MS Sans Serif -Bold
ZapfChancery-MediumItalic	<input type="radio"/>	Corier	MS Serif
Symbol	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Symbol
ZapfDingbats	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	Wingdings
ocr-b	<input type="radio"/> (注 2)	<input type="radio"/> (注 2)	Courier

(○は対応フォント フォント名は代替フォント)

注 1.

各日本語フォントを搭載したプリンタでなければ使用できません。

注 2.

Create!Form が持っているフォントです。プリンタに搭載されていなくても印刷することができます。FormPrint ランタイムでは、QDF ファイルに /font キーワード =ocr_b を設定する必要があります。

※ QDF の設定方法については、Design マネージャのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.9 ユーティリティ」-「QDF エディタ」をご覧ください。

2. PDF 用埋め込みフォント

FormCast/FormCollect ランタイムで出力する PDF にフォントを埋め込む方法を解説します。

2-1. 概要

Create!Form では FormCast および FormCollect ランタイムにて出力する PDF にフォントを埋め込むことが可能です。

PDF にフォントを埋め込まない場合、PDF を閲覧する環境にそのフォントが存在しないと、別のフォントに置き換えられて表示されます。また、日本語に対応していない外国語環境などでフォントが埋め込まれていない PDF を閲覧すると、日本語が文字化けする可能もあります。PDF にフォントを埋め込むことで、外国語環境などの文字化けを防ぎ、作成した環境と同じフォントで表示、印刷することができます。

Create!Form でのフォント埋め込みの特徴は以下の通りです。

■埋め込み可能なフォントタイプ

PDF に埋め込めるフォントは TrueType フォント (TTF)、アウトラインが TrueType 形式の OpenType フォント (TTF ファイル)、TrueType フォントのコレクションファイル (TTC) です。

■サブセットフォントプログラムの埋め込み

PDF 内で使用される文字のみのサブセット化されたフォント情報（サブセットフォントプログラム）が埋め込まれます。その PDF で使用されていない文字の情報は埋め込まれません。

■フォントを埋め込めるオブジェクト

フォントを埋め込める Create!Form のオブジェクトは以下の通りです。なお、帳票種別がオーバーレイの場合にはフォントを埋め込むことはできません。

- ・テキスト変数
- ・固定テキスト
- ・表オブジェクト内のテキスト
- ・グラフ変数
- ・ページ変数
- ・日付変数
- ・リンク変数

なお、PDF にフォントを埋め込む際の注意事項については「2-5. 注意事項」をご覧ください。

2-2. 設定方法

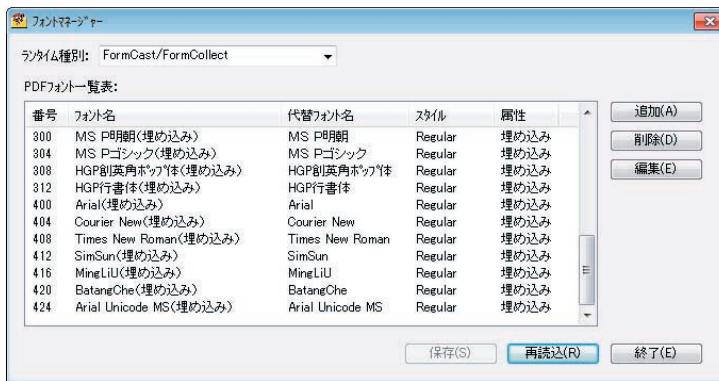
2-2-1. フォントマネージャによるフォント登録

PDF にフォントを埋め込む場合は、まずフォントマネージャでフォントの登録を行います。

Step1. フォントマネージャの起動

Design マネージャのメニュー [ツール]-[フォントマネージャ] をクリックしフォントマネージャを起動します。フォントマネージャの [ランタイム種別] に [FormCast/FormCollect] が選択されていることを確認してください。

図：フォントマネージャ - ランタイム種別：FormCast/Collect



[PDF フォント一覧表] に FormCast/FormCollect ランタイムで使用可能なフォント、およびあらかじめ登録された 11 個の PDF 用埋め込みフォントが表示されます。

※フォントマネージャの詳細は「2-3-1. フォントマネージャ」をご覧下さい。

⟨⟨ 注意事項 ⟩⟩

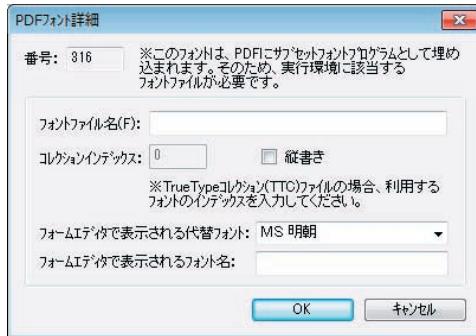
あらかじめ登録された以下の 11 個の PDF 用埋め込みフォントは、参考のために登録されています。登録されたフォントファイルがご利用の環境に存在しない場合には、PDF にフォントが埋め込まれませんのでご注意下さい。

フォント番号	フォント名
300	MS P明朝 (埋め込み)
304	MS Pゴシック (埋め込み)
308	HGP 創英角ﾎﾟｯﾌﾟ 体 (埋め込み)
312	HGP 行書体 (埋め込み)
400	Arial (埋め込み)
404	Courier New (埋め込み)
408	Times New Roman (埋め込み)
412	SimSun (埋め込み)
416	MingLiU (埋め込み)
420	BatangChe (埋め込み)
424	Arial Unicode MS (埋め込み)

Step2. PDF 用埋め込みフォントの追加

フォントマネージャの [追加] ボタンをクリックし、[PDF フォント詳細] ダイアログを起動します。

図：PDF フォント詳細ダイアログ



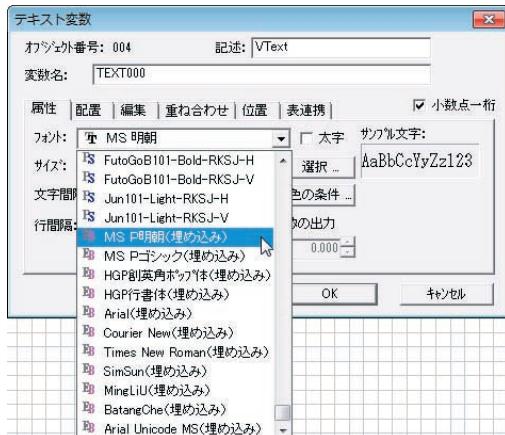
[フォントファイル名] に追加したい TrueType フォントのファイル名を入力します。
 [フォームエディタで表示されるフォント名] には、Form エディタでフォントを選択するときにわかりやすい名前を入力してください。
 [OK] ボタンをクリックします。
 ※ [PDF フォント詳細] ダイアログの詳細は「2-3-2. PDF フォント詳細ダイアログ」をご覧下さい。

フォントマネージャの [PDF フォント一覧表] にフォントが追加されたことを確認して、[保存] ボタンを押してください。

2-2-2. Form エディタでのフォント設定

「2-2-1. フォントマネージャによるフォント登録」の後、Form エディタでフォントを設定する際、登録した PDF 用の埋め込みフォントが選択できるようになります。フォント選択コンボボックスには、「2-2-1. フォントマネージャによるフォント登録」で設定した [フォームエディタで表示されるフォント名] が表示されます。

図：フォント選択コンボボックス - PDF 用埋め込みフォント



登録したフォントを使用したいオブジェクト（テキスト変数など）に設定してください。

2-2-3. フォントファイルの配置

FormCast/FormCollect ランタイムの実行環境には、「2-2-1. フォントマネージャによるフォント登録」で設定したフォントファイルが必要となります。フォントファイルが存在しない場合にはMS 明朝に変更され、フォントは埋め込まれません。

■ Windows 環境

Windows の fonts フォルダ内にフォントファイルが存在することを確認してください。

■ UNIX/Linux 環境

フォントファイルが配置されたディレクトリのパスを環境変数「CREATE_FONT」に設定してください。環境変数「CREATE_FONT」が設定されている場合には、設定されたディレクトリ内のフォントファイルが利用されます。

環境変数「CREATE_FONT」を設定しない場合は、Create!Form の導入ディレクトリ内、font サブディレクトリを参照します。

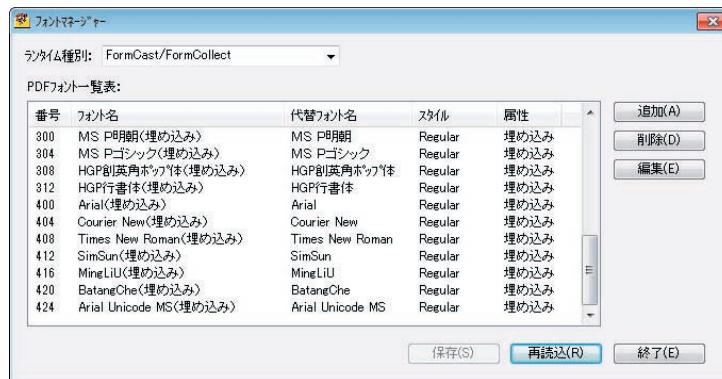
2-2-4. ランタイム実行

PDF 用埋め込みフォント使用時に、FormCast/FormCollect ランタイム実行で特別に指定するオプション等はありません。資源ファイルを実行環境に転送し、通常通りにランタイム実行することで、出力される PDF にフォントが埋め込まれます。

2-3. 画面説明

2-3-1. フォントマネージャ

図：フォントマネージャ - ランタイム種別 :FormCast/FormCollect



Design マネージャのメニュー [ツール]-[フォントマネージャ] から起動できます。

FormCast/FormCollect ランタイム用のフォントを設定する場合には、[ランタイム種別] から「FormCast/FormCollect」を選択してください。

■ PDF フォント一覧表

[番号]

フォントの内部管理番号が表示されます。内部で自動的に割り振られる番号ですので、特に意識する必要はありません。

[フォント名]

Form エディタでフォントを選択する際、コンボボックスに表示されるフォント名が表示されます。

[代替フォント名]

Form エディタ上で代替される Windows フォント名が表示されます。

[スタイル]

登録されたフォントのスタイルが表示されます。PDF 用埋め込みフォントを登録した場合は、全て「Regular」と表示されます。

[属性]

登録されたフォントの属性が表示されます。

- | | |
|------|--|
| 固定 | FormCast/FormCollect で使用可能な TrueType フォントです。PDF にフォントは埋め込まれません。フォント情報の変更 / 削除はできません。 |
| 埋め込み | ユーザが追加 / 編集 / 削除が可能な TrueType フォントです。PDF にフォントが埋め込まれます。 |

■コマンドボタン**[追加]**

新しい PDF 用埋め込みフォントを追加します。

ボタンをクリックすると [PDF フォント詳細] ダイアログが起動されます。

※ [PDF フォント詳細] ダイアログの詳細は「2-3-2. PDF フォント詳細ダイアログ」をご覧下さい。

なお、登録できる PDF 用埋め込みフォントの数は 25 個までです。

[削除]

[PDF フォント一覧表] で選択されたフォントを削除します。ただし、[属性] が「固定」のフォントは削除できません。

[編集]

[PDF フォント一覧表] で選択されたフォントを編集します。

ボタンをクリックすると [PDF フォント詳細] ダイアログが起動し、フォント情報を編集することができます。また、[PDF フォント一覧表] で編集したいフォント上をダブルクリックしてもダイアログを開くことができます。[PDF フォント詳細] ダイアログの詳細は「2-3-2. PDF フォント詳細ダイアログ」をご覧下さい。

[保存]

追加、削除、編集のいずれかを行った後、有効になります。

ボタンをクリックすると、設定したフォント情報が保存され、Form エディタのフォント選択コンボボックスに反映されます。

[再読み込み]

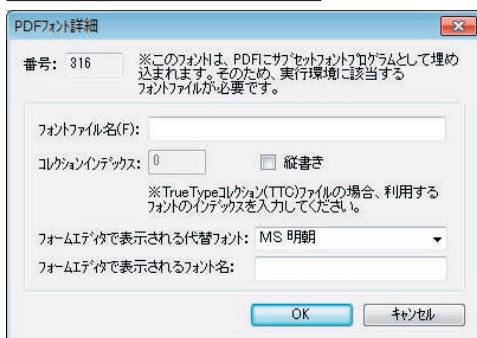
ボタンをクリックすると、フォント情報が最後に保存された状態に戻ります。

[終了]

フォントマネージャを終了します。

2-3-2. PDF フォント詳細ダイアログ

図：PDF フォント詳細ダイアログ



[PDF フォント詳細] ダイアログは、フォントマネージャから [追加] 又は [編集] ボタンをクリックした場合、あるいは [PDF フォント一覧表] でフォントをダブルクリックした際に起動します。

[PDF フォント一覧表] で [属性] が「固定」のフォントを選択した場合、[フォームエディタで表示される代替フォント] と [フォームエディタで表示されるフォント名] を確認できますが、編集はできません。

[PDF フォント一覧表] で [属性] が「埋め込み」のフォントを選択した場合、および [追加] ボタンでフォントを登録する場合には、以下の項目説明を参照してください。

[番号]

フォントの内部管理番号が表示されます。編集することはできません。

[フォントファイル名]

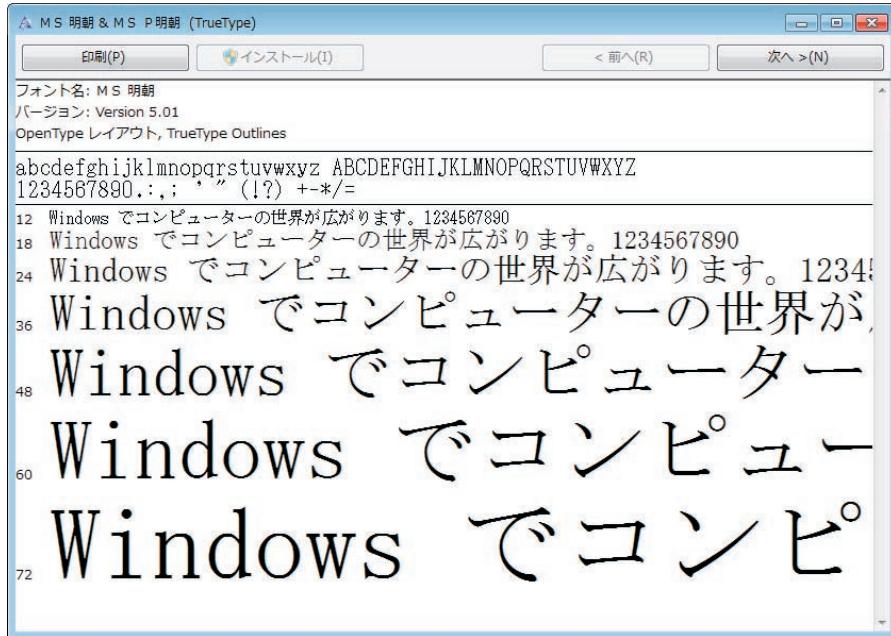
PDF に埋め込むフォントのファイル名を設定してください。

[コレクションインデックス]

PDF に埋め込むフォントが TrueType コレクション (TTC) ファイルの場合、コレクションファイル内でのフォントのインデックスを設定してください。

※ Windows 上で TTC ファイルをダブルクリックすると、そのコレクションファイルに含まれたフォントの種類を確認することができます。次ページの場合、1 番目のフォント「MS 明朝」のインデックスは「0」、2 番目のフォント「MS P 明朝」のインデックスは「1」となります。
(※画像のダイアログ上部に「MS 明朝 & MS P 明朝」と表示されています。)

図：コレクションインデックスの確認



[縦書き]

縦書き用のフォントを埋め込む際にはチェックを入れます。

[フォームエディタで表示される代替フォント]

Form エディタ上で描画に使用するフォントを設定してください。FormCast/FormCollect ランタイムの出力結果には影響ありません。

[フォームエディタで表示されるフォント名]

Form エディタでフォントを選択する際に、フォント選択コンボボックスで表示される名前を設定してください。FormCast/FormCollect ランタイムの出力結果には影響ありません。

2-4. 制限事項

①埋め込み可能なフォントタイプ

PDF 用埋め込みフォントとして利用できるフォントのタイプは以下の通りです。

- ・TrueType フォント (TTF ファイル)
- ・TrueType フォントのコレクションファイル (TTC ファイル)
- ・アウトラインが TrueType 形式の OpenType フォント (TTF ファイル)

②フォントを埋め込めるオブジェクト

PDF にフォントを埋め込める Create!Form のオブジェクトは以下の通りです。

- ・テキスト変数
- ・固定テキスト
- ・表オブジェクト内のテキスト
- ・グラフ変数
- ・ページ変数
- ・日付変数
- ・リンク変数

③フォントマネージャで登録できるフォント数

フォントマネージャに登録できる PDF 用埋め込みフォントの数は 25 個です。

1 つの PDF ファイルに 25 個以上のフォントを埋め込むことはできません。

④フォントファイル内に含まれない文字コードを表示したときの動作

フォントファイル内に対応しない文字コードが含まれている場合、ランタイム実行時に警告が発生します。

例えば、制御文字 (0x00 ~ 0x1f) のデータを割り当ててランタイム実行すると警告が発生し、制御文字を全角スペースに置換して出力します。

2-5. 注意事項

① PDF ファイルサイズの増加

フォントを埋め込むことにより、埋め込まない場合よりも PDF ファイルのサイズが大きくなります。PDF ファイルサイズの増分は埋め込むフォントの種類と PDF 内で使用される文字数※によります。

※ここで「文字数」は、同じ文字を PDF 内で複数回使用していても「1」と数えます。例えば、文字列「AAABC」は「A」「B」「C」3 文字分のフォント情報が PDF に埋め込まれます。

②フォントのライセンス

フォントによっては PDF への埋め込みが許可されない場合があります。埋め込みの許可がないフォントが指定された場合、PDF は出力されません。

また、PDF への埋め込みが許可されたフォントであっても、そのフォントを埋め込んだ PDF の扱いに関しては、フォントの利用権限を確認したうえでその制限に従って下さい。

③ Form ファイルの再保存

フォントマネージャでフォント情報を変更した際には、Form ファイルの再保存が必要となりますのでご注意下さい。

④共通のフォント情報を使用した開発

複数の環境で帳票開発を行う場合、「2-2-1. フォントマネージャによるフォント登録」で登録したフォントを使用するためには、Create!Form 導入ディレクトリ内の fonts.dat ファイルと fontnums.dat ファイルを、全ての帳票開発環境の Create!Form 導入ディレクトリにコピーしてください。Form エディタで、登録した PDF 用埋め込みフォントを選択できるようになります。

3. PostScript フォント追加

FormPrint ランタイムで利用する印刷用の PostScript フォントを追加・編集する方法を解説します。

3-1. 概要

Create!Form では、FormPrint ランタイムで使用できるあらかじめ用意された PostScript フォントに加えて、ユーザがプリンタにインストールした PostScript フォントを使用することができます。

また、Form エディタでは PostScript フォントを設定した場合、形状が最も近い Windows フォントを代替して描画していますが、Form エディタで表示される代替用のフォントやフォントスタイル（太字、斜体）をカスタマイズすることができます。

3-2. 設定方法

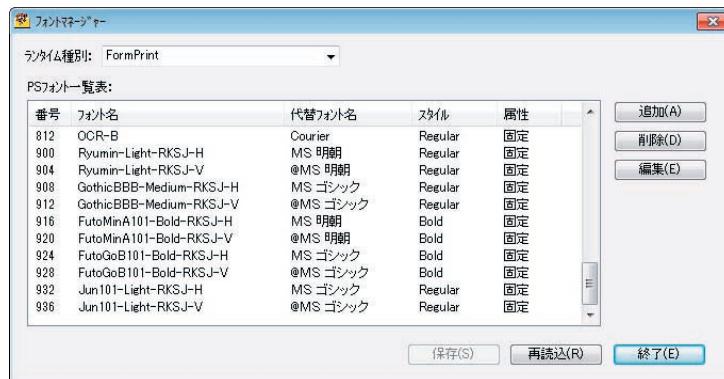
3-2-1. フォントマネージャによる PostScript フォント登録

FormPrint ランタイムで使用する PostScript フォントを追加したい場合には、まずフォントマネージャでフォントの登録を行います。

Step1. フォントマネージャの起動

Design マネージャのメニュー [ツール]-[フォントマネージャ] をクリックしフォントマネージャを起動します。フォントマネージャの [ランタイム種別] から [FormPrint] を選択してください。

図：フォントマネージャ - ランタイム種別：FormPrint



[PS フォント一覧表] にあらかじめ登録された PostScript フォントが表示されます。

※フォントマネージャの詳細は「3-3-1. フォントマネージャ」をご覧下さい。

Step2. PostScript フォントの追加

フォントマネージャの [追加] ボタンをクリックし、[拡張フォントの追加] ダイアログを起動します。

図：拡張フォントの追加ダイアログ



[PostScript フォント] の [フォント名] に追加したいフォントのプリンタで設定されている PostScript フォント名を入力してください。※ PostScript フォント名が確認できない場合、購入元のプリンタメーカーもしくはフォントメーカーにお問合せください。

PostScript フォント名を入力し、[OK] ボタンでダイアログを閉じます。

[拡張フォントの追加] ダイアログの詳細は「3-3-2. フォントの属性ダイアログ」をご覧下さい。

フォントマネージャの [PS フォント一覧表] に PostScript フォントが追加されたことを確認して、[保存] ボタンをクリックしてください。

登録した PostScript フォントの情報は、Create!Form の導入ディレクトリ直下、font サブディレクトリ内の user.fnt ファイルに書き出されます。

3-2-2. Form エディタでのフォント設定

「3-2-1. フォントマネージャによる PostScript フォント登録」の後、Form エディタでフォントを設定する際、登録した PostScript フォントが選択できるようになります。

登録した PostScript フォントを使用したいオブジェクト（テキスト変数など）に設定してください。

3-2-3. QDF ファイル設定

「1. フォントマネージャによる PostScript フォント登録」で登録した PostScript フォントの情報は、Create!Form の導入ディレクトリ直下、font サブディレクトリ内の user.fnt ファイルに書き出されます。FormPrint ランタイム実行時にこの user.fnt を利用するため、QDF ファイルにフォント辞書として user.fnt を登録します。

Step1. QDF エディタの起動

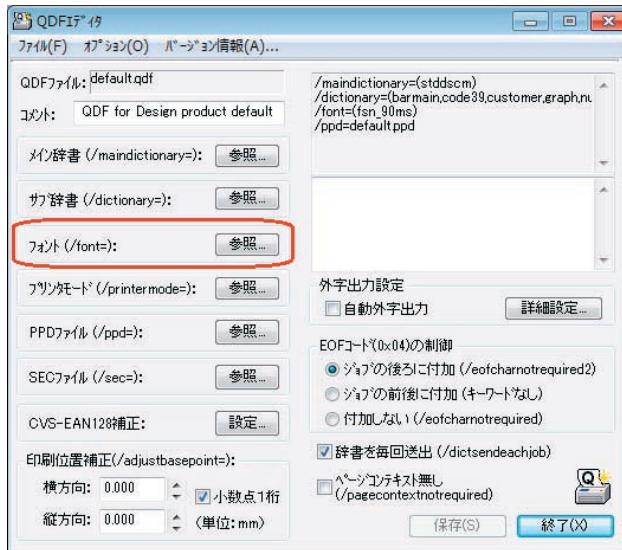
Design マネージャのメニュー [ツール]-[QDF エディタ] をクリックし QDF エディタを起動します。

Step2. フォント辞書の登録

QDF エディタのメニュー [新規作成] または [開く] をクリックして、user.fnt ファイルを登録する QDF ファイルを開きます。

[フォント (/font)] の右横の [参照] ボタンをクリックします。

図：QDF エディタ - フォント参照ボタン



[ファイル選択] ダイアログが起動します。

[選択可能ファイル] の中から「user」を選択し [追加] ボタンをクリックします。

図：ファイル選択ダイアログ



[選択ファイル] に「user」が追加されるのを確認し、[OK] ボタンをクリックしてください。QDF ファイルに user.fnt 辞書が登録されましたので、QDF ファイルを保存し QDF エディタを閉じてください。

3-2-4. ランタイム実行

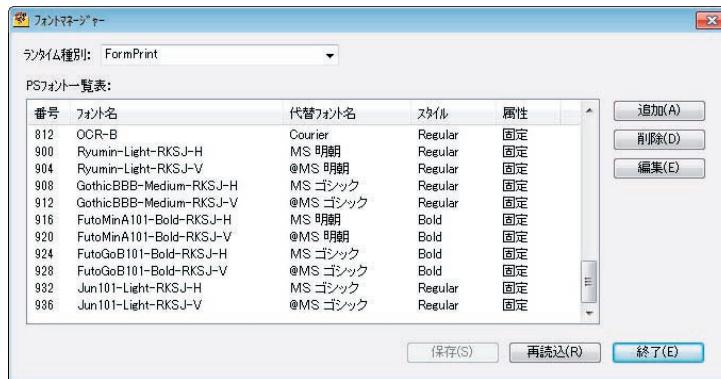
FormPrint ランタイム実行環境では、Create!Form の導入ディレクトリ直下、font サブディレクトリ内の user.fnt ファイルと、「3-2-3. QDF ファイル設定」で作成した QDF ファイルが必要となります。user.fnt は実行環境の Create!Form 導入ディレクトリ直下、font サブディレクトリ内に、QDF ファイルは実行環境の Create!Form 導入ディレクトリにアスキーモードで転送してください。

FormPrint ランタイム実行時に「-q」オプションにて user.fnt を登録した QDF ファイルを指定することで、登録した PostScript フォントが使用できます。

3-3. 画面説明

3-3-1. フォントマネージャ

図：フォントマネージャ - ランタイム種別：FormPrint



Design マネージャのメニュー [ツール]-[フォントマネージャ] をクリックしフォントマネージャを起動します。

FormPrint ランタイム用のフォントを設定する場合には、[ランタイム種別] から「FormPrint」を選択してください。

■ PS フォント一覧表

[フォント番号]

フォントの内部管理番号が表示されます。通常は意識する必要はありません。

※新しいフォントを追加する時に、フォント番号を自動で設定します。詳細は「3-3-2. フォントの属性ダイアログ」をご覧下さい。

[フォント名]

FormPrint ランタイムで使用可能な PostScript フォント名が表示されます。

Form エディタでフォントを選択する際、コンボボックスにこのフォント名が表示されます。

[代替フォント名]

Form エディタ上で代替される Windows フォント名が表示されます。

[スタイル]

代替フォントのスタイルが表示されます。

Regular 代替フォントの形状そのままの場合に表示されます。

Bold 代替フォントを太字に加工した場合に表示されます。

Italic 代替フォントを斜体に加工した場合に表示されます。

Bold Italic 代替フォントを太字、斜体に加工した場合に表示されます。

■ コマンドボタン

[追加]

新しいユーザー拡張フォントを追加します。

ボタンをクリックすると、「拡張フォントの追加」ダイアログが表示されます。「拡張フォントの追加」ダイアログの詳細は、「3-3-2. フォントの属性ダイアログ」をご覧下さい。なお、追加できる PostScript フォント数は 15 個までです。

[削除]

[PS フォント一覧表] で選択されたフォントを削除します。ただし、あらかじめ登録されたフォントを削除することはできません。

[編集]

[PS フォント一覧表] で選択されたフォントの属性を編集します。

ボタンをクリックすると、[フォントの属性] ダイアログが表示されフォント情報を編集することができます。また、[PS フォント一覧表] で編集したいフォント上をダブルクリックしてもダイアログを開くことができます。

※ [フォントの属性] ダイアログの詳細は「3-3-2. フォントの属性ダイアログ」をご覧ください。

[保存]

追加、削除、編集いずれかを行った後、有効になります。

ボタンをクリックすると、設定したフォント情報が user.fnt ファイルに保存され、Form エディタのフォント選択コンボボックスに反映されます。

[再読込]

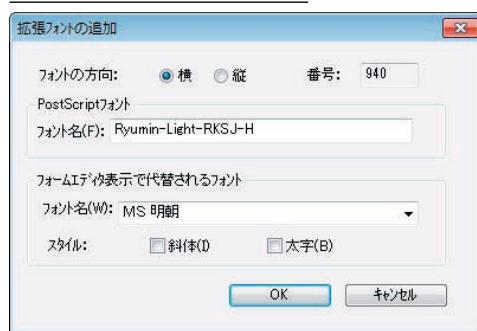
ボタンをクリックすると、フォント情報が最後に保存された状態に戻ります。

[終了]

フォントマネージャを終了します。

3-3-2. フォントの属性ダイアログ

図：フォントの属性ダイアログ



[フォントの属性] ダイアログは、フォントマネージャから [追加] 又は [編集] ボタンをクリック、あるいは [PS フォント一覧表] でフォントをダブルクリックした際に起動します。

[フォントの方向]

横書き / 縦書きのいずれかを選択します。

変更後、[番号] は自動的に一番小さい未使用の番号に変更され、代替フォント名もそれに応じて自動設定されます。自動設定は以下の規則に従います。

自動設定規則：

フォント番号	フォント方向	デフォルト代替フォント
940、948、956、964、972、980、988、996	横	MS 明朝
944、952、960、968、976、984、992	縦	@MS 明朝

[番号]

フォントの内部管理番号が表示されます。編集することはできません。

[フォント名]

プリンタで設定されている PostScript フォント名を入力してください。

※ PostScript フォント名が確認できない場合、購入元のプリンタメーカーもしくはフォントメーカーにお問い合わせください。

追加できる PostScript フォント名は 35 文字以下に限られています。

[フォームエディタで代替されるフォント：フォント名]

Form エディタ上で描画に使用するフォントを設定してください。

[フォームエディタで代替されるフォント：スタイル]

斜体 代替フォントを斜体に加工する場合にチェックします。

太字 代替フォントを太字に加工する場合にチェックします。

3-4. 注意事項

①共通のフォント情報を使用した開発

複数の環境で帳票開発を行う場合、「3-2-1. フォントマネージャによる PostScript フォント登録」で登録したフォントを使用するためには、Create!Form 導入ディレクトリ内の fonts.dat ファイルと fontnums.dat ファイルを、全ての帳票開発環境の Create!Form 導入ディレクトリにコピーしてください。Form エディタで、登録した PostScript フォントを選択できるようになります。

Create!Form

フォント 第2版

発行日 2014年9月
発行者 インフォテック株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25